

ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

組織統治 人権 労働慣行 環境 公正な事業慣行 消費者課題 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展



ボルネオ島の熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

開発により劣化したボルネオ島の熱帯雨林を植林により再生させ、生態系の保全を目指すものです。

ITOCHU Group Forest for Orang-utan

世界的に問題となっている熱帯林の著しい減少・劣化、及びそれに伴う生態系の破壊は、1992年のブラジルで開催された地球サミットでも指摘されていましたが現在も止まっていません。また、森林の破壊が地球温暖化の原因である二酸化炭素増大の原因のひとつともいわれています。

ボルネオ島(カリマンタン島)はマレーシア・インドネシア・ブルネイの三カ国にまたがる熱帯林地域で、日本の約1.9倍もの面積がある、世界で3番目の大きさの島です。

アマゾンなどと並び、生物多様性の宝庫といわれるボルネオ島も最近では開発が進み、自然再生力だけでは生態系保全ができない程、傷ついた熱帯林も出てきました。今回のプログラムは、これらの傷ついた熱帯林再生の手助けをするものです。伊藤忠が支援する森林再生地のボルネオ島北東部のマレーシア国サバ州北ウルセガマでは、世界的な自然保護団体であるWWFが現地サバ州政府森林局と連携し、約2,400ヘクタールの森林再生活動を行っています。伊藤忠グループはそのうちの967ヘクタールの再生を支援するものです。当地は、絶滅危惧種であるオランウータンの生息地でもあり、森林再生によりこのオランウータンを保護するのみならず、ここに生息する多くの生物を守ることもつながります。



2011年6月末時点で、381ヘクタールの植林が完了しました。

熱帯林の再生には、長い時間がかかります。5年間だけでは十分ではありません。しかしこれをひとつの契機として、社員やグループ会社とも協力し、動物たちが安心して暮らせる森の再生を目指していきます。

プログラムの内容

寄付先	WWFジャパン
期間	2009年度より2013年度まで(5年間)
場所	ボルネオ島(マレーシア国サバ州北ウルセガマ地区)
面積	967ヘクタール(東京都港区の約半分の面積)
寄付金額	総額2億5000万円(グループ会社よりの寄付含む)
植樹	植樹は、現地の在来樹種のフタバガキ科が中心となり、現場状況にあった樹種が植えつけられます。5年をかけて植樹及びメンテナンスを実施します。
社員ボランティア活動	グループ会社を含めた社員ボランティアによる現地植林活動(植樹、草刈など)や野生動物の観察等を実施中

社員ボランティアによる植林活動



2009年に植樹した木が9ヶ月でここまで成長



現地スタッフと一緒に丁寧に植樹



伊藤忠グループの植林サイトにて記念撮影

WWFのプログラム概略

■ ボルネオ島北ウル セガマ森林再生活動～蘇れ！絶滅危惧種オランウータンの森～

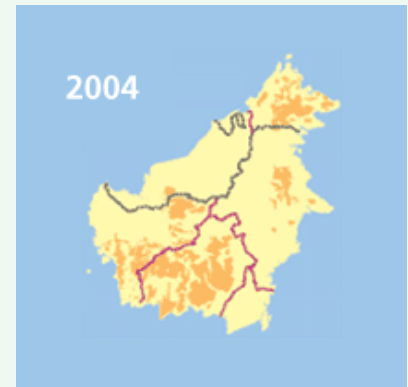
趣旨

マレーシア・サバ州で保全優先度が最も高く、劣化が激しいため人為的な森林再生活動が必要となっている地域2400haで、植林活動を行う。

場所の重要性

ボルネオ島にはオランウータンをはじめとした固有の動物や多種多様な植物が生息しており、生物多様性の宝庫のひとつである。ボルネオ島の象徴的ほ乳類であるオランウータンを例に挙げると、この霊長類はボルネオ島とスマトラ島にのみ生息する絶滅危惧種で、WWFでは2005年、ボルネオ島の中で特に優先度の高いオランウータンの生息地をインドネシア領3地域とマレーシア・サバ州と設定した。サバ州の中でも特に重要な地域が次の5カ所である（重要度順）。

オランウータンの生息頭数の減少は、森林面積の全体的減少ならびに森林の分断によるものであり、その生息地を確保することはボルネオ島の森林生態系保全に直結している。



オランウータン生息地
© WWF Japan All Rights Reserved.

地域	面積(km ²)	生息頭数
ウル セガマ マルア	3,000	5,000
キナバタンガン北	1,400	1,700
タビン野生生物保護区	1,200	1,400
キナバタンガン下流域	400	1,100
クランバ野生生物保護区	210	500

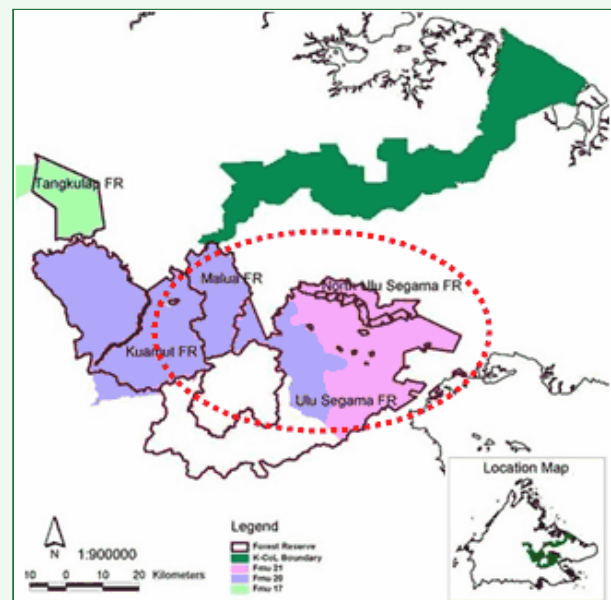
活動の重要性

最重要地域のウル セガマ マルア (USM) 地域は、1960年初頭から木材用伐採が始まったが、2008年1月以降伐採は停止され、サバ州政府はUSM森林管理10年計画策定チームにWWFマレーシアを招聘した。このように保護の機運が高まり保全活動が進めやすい環境で事業を進め、以下の4つの目標を達成する。

1. 多様な種が生息する低地フタバガキ林を復元し、生物多様性と遺伝子の保護を図る
2. 大型ほ乳類と希少植物の生息地を長期的に確保する
3. 固有植物種を絶滅の危機から救う
4. 分断された森林をつなぎ、野生動物がより広範囲に移動して、餌を入手できる環境を長期的に確保する

活動場所

ウル セガマの中でも、特に森林の劣化が激しい北ウル セガマは、約90頭のオランウータンが生息しているが、劣化が激しすぎるため、植林・雑草抜き取りという人間の介入なしには森林再生が見込めない状態である。この地域の2400ヘクタールを森林復元場所とした。ウル セガマ地域は商業利用が可能な森林保護区であり、ほかの森林保護区同様、サバ州森林局(SFD)の所有地である。WWFはすでにここに現地事務所を開設、オランウータンのモニタリングチームも置いている。対象地域は3ブロックに分割

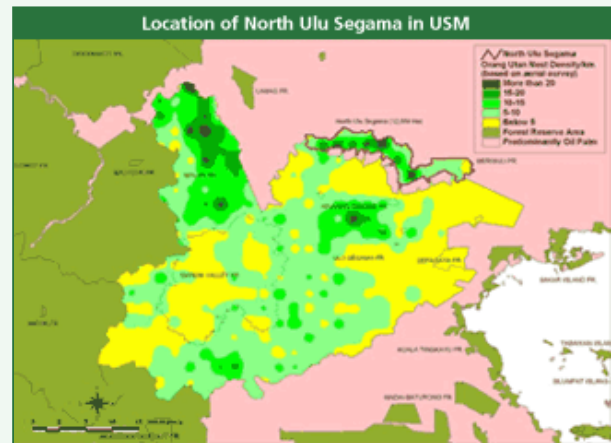


ウル セガマ マルア地域
© WWF Japan All Rights Reserved.

され、内1ブロックは

- Mark & Spencer(英国)
- Addesium 財団(オランダ)
- WWF UK
- WWF Germany
- WWF US

からの資金を得て作業を開始した。



© WWF Japan All Rights Reserved.

種名(現地名称)	学名	商業名
Laran	Neolamarckia cadamba(アカネ科)	ララン
Binuang	Octomeles sumatrana(ダティスカ科オクトメレス属)	ビヌアン
Seraya Kepong	Shorea ovalis(フタバガキ科サラノキ属)	セラヤ
Kapur Paji	Dryobalanops lanceolata(フタバガキ科リュウノウジュ属)	カポール
Seraya Tembaga	Dipterocarpus caudiferus(フタバガキ科フタバガキ属)	クルイン
Seraya Daun Kasar	Shorea fallax(フタバガキ科サラノキ属)	セラヤ
Kawang Jantung	Shorea macrophylla(フタバガキ科サラノキ属)	テンカワン
Selangan Jangkang	Hopea nervosa(フタバガキ科)	メラワン
Urat Mata Daun Licin	Parashorea mallanonan(フタバガキ科)	ホホワイトセラヤ
Seraya Daun Mas	Shorea argentifolia(フタバガキ科サラノキ属)	セラヤ
Seraya Punai	Shorea parvifolia(フタバガキ科サラノキ属)	レッドセラヤ
Seraya Kuning	Shorea kudatensis(フタバガキ科サラノキ属)	イエローセラヤ

ボルネオ便り 第2回

 組織統治
  人権
  労働慣行
  環境
  公正な事業慣行
  消費者課題
  コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

ITOCHU Group: Forest for Orang-utan の活動の地、ボルネオ島・マレーシア国サバ州にて社員ならびにグループ会社社員の計16名が参加して植林体験ツアーを行いました。

現地の自然あふれる魅力と参加者がこのツアーを通して感じたことをご紹介します。



コタキナバル



ボルネオ島へのツアーの玄関口でもあり、商業都市としても発展する人口30万人ほどの街です。社員たちのツアーもこの街から始まります。WWFマレーシアの事務所もあります。

参加者より

植林活動の前日、WWFの事務所にて、断片化された森林をつなげ700kmにもおよぶ生態系の街道を作ろうとしているという話を聞きました。私たちが今回の活動で植林した距離はそのうちのほんのわずかではありますが、街道の中心となる大事な場所だとのこと、大役を任された気持ちになりました。

北ウルセガマ



本プロジェクトの植林地です。967ha(約東京ドーム207個分)を支援し、森の再生を目指します。2010年11月初めまでに約160haの植樹が完了しています。

参加者より

船からも、車からも、飛行機の上からも見える、果てしなく続くパーム椰子プランテーション。数多くの野生動物が調和を以って住んでいたジャングルを切り開いて、ここまで新たな世界を作り出す人間の破壊力というものが恐ろしかった。

これが“どこか遠い星”の光景ではなく、同じ空一枚で繋がった、時差1時間の国で広がり続けている光景だということを忘れてはなら

スカウ



キナバタンガン川を巡るクルーズで人気な場所で、ワニやテングザル等数多くの野生動物に出会えます。

参加者より

クルーズは夜と朝では表情が違い、ジャングルの中にいることを感じさせてくれました。夜は、滅多に出会えないスローロリスや色とりどりのカワセミ達が木の上でお出迎え。船を進めると水面にはライトに反射したワニの赤い目が…。朝はテングザルのお食事中に遭遇することができました。ここは、人間と動物が隣り合わせて生活をしていることを教えてくれる場所でした。

サンダカン



コタキナバルに次ぐ第2の都市です。1947年にコタキナバルへ首都が移されるまで、英国領北ボルネオの中心として貿易の拠点として栄えました。

参加者より

サバ州第2の都市と聞いていたが、規模はとて小さく、古い家々が密集した街に驚いた。しかし、その古ぼけた植民地時代の面影の残る街のいたるところで、新しいビルの建設が行われており、観光地にふさわしい綺麗な街並みを望むのと同時に、穏やかな住人たちのようにそのままいて欲しいと願い、何ともいえない気持ちがあった。

セピロック



絶滅の危機に瀕したオランウータンを野生に戻すための施設「オランウータン リハビリテーションセンター」があります。

参加者より

係りの人よりもらう餌を横取りしようとするサルを追い払うオランウータンの姿はまるで人間のよう。DNAが人類と96%類似しているという事を実感しました。そのような光景を目の当たりにできる一方、この場所は森林開発などによって親をなくしたオランウータンが保護されている施設であるため、保護されるオランウータンが増えないためにも植林の大切さを改めて感じました。

植林体験ツアー

■ ツアー日程（4泊5日）

1日目	11月18日	羽田～コタキナバル（ボルネオ）（WWF事務所）
2日目	11月19日	コタキナバル～ラハダトゥ～ウルセガマ（植林地）～スカウ
3日目	11月20日	スカウ～サンダカン～セピロック（リハビリテーションセンター）
4日目	11月21日	セピロック～サンダカン～コタキナバル
5日目	11月22日	コタキナバル～羽田

ツアーの様子を動画配信中

● 高画質 (1Mbps)

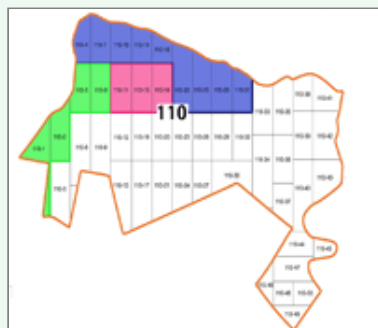


● 標準画質 (300Kbps)



■ 2010年11月現在の植林状況

2010年11月初旬時点で163ヘクタール（青色部分）の植樹が終了し、現在は緑色部分（約80ヘクタール）を作業中で、2010年末までに300ヘクタールの植樹完了を目指しています。2010年の2～5月は、現地の旱魃のため作業は中断しましたが、現在は順調に進行しています。今回のツアーでは、地図上の左上の110-5地区に木々を植えました。



青：植樹完了

緑：作業中

赤：次回作業予定

■ 植林レポート

朝一番の飛行機にてコタキナバルからラハダトゥに移動し、その後4台の四輪駆動車でいざ植林地へ！



前日は、WWFマレーシアの事務所にて森林保護についての手法と重要性、オランウータンの調査方法をお伺いして、全員期待とやる気が膨らんでいます。



豆知識1

伊藤忠の森がある地域周辺は、ボルネオオラウータンの生息密度が他の地域と比較しても高い地域です。伊藤忠の森周辺だけでも14匹のオラウータンの生態が5人の研究者によって研究されています。WWFは現在確認されているオランウータンに名前をつけ調査を継続しています。また、継続的にヘリコプターを利用して空からの調査も行います。

雨季とは思えない晴天の中、空港から街を抜けると一面のパームヤシ農園が広がっています。行けども行けどもさまざまな大きさのパームヤシの木しか見る事ができません。



ところどころ、ヤシの木が水に浸かっているところがありましたが、後で聞いたところ私たちが訪れる少し前に、大雨のため水没した村もあったほどだったそうです。

突然、ヤシ畑が終わったと思ったら、そこが今回の目的地であるWWFの管理している保護区です。

保護区といえども思い描いているジャングルとは程遠く、青い空が広がっていてところどころに高い木がポツポツと生えています。



到着後、まず汗と泥まみれになる前に現地の作業員たちと集合写真を撮をパチリ。
女子が多いので華やかです。何気に作業員の方々も嬉しそう。その後、看板前に記念に植樹。



写真撮影が済んだら、途中あぶに刺されながらも今まで植樹した木々の生長を調査に行きます。ジャングルの中には小川も流れ、貝や魚も生息しています。



植樹した木々の生長状況

パイオニア樹種



2010年11月

フタバガキ科



2009年11月植樹時



2010年11月

左の写真は2010年2月に植えた木ですが、9ヶ月でここまで大きくなりました。この樹種は、生長が特に早いマレーシアの在来種の一つで、現在約6メートルの高さがあります。



豆知識2

パイオニア樹種の木は早く生長するため、日陰を作ってくれます。その日陰の中に現地の主要樹種であるフタバガキ科の木がゆっくりと育ち、最後には70～80mにも生長するのです。また、パイオニア樹種の実や葉は、野生動物の餌にもなります。

ヤシジュースを振舞っていただいて昼食をとった後、いよいよ植樹へ。サンサンと日が照る中、ジャングルに突入です！



マンツーマンで作業員の方の指導の元、1本1本丁寧に植えていきます。



8m間隔で木を植えていきます。ジャングルの中では、次に植える場所まで歩いていくだけでヘトヘトになります。この地域周辺には、未だ豊かな生態系が断片的に残っています。そのため、固有種で絶滅危惧種でもあるボルネオゾウなども伊藤忠の森を生態回廊として利用しています。



結局、今回は11人で200本近くの木々を植えることができ、みんな充実した笑顔です。



作業中、保護区の森にオランウータンが出没したとの情報が入り、近い将来に自分たちが木々を植えた森にもオランウータンが住み着いてくれることを願いながら、植林地を後にしました。



豆知識3

オランウータンは葉っぱを利用して毎日木の上に新しい寝床を作りますが、ときたまサボってすでにある寝床を使うこともあります。

感動をありがとうございました！



WWFジャパン
業務室 水野 敏明

今回のツアーでは、大きく感動した点が2つあります。一つは、昨年植えた木々が2m以上にも大きく生長していることを確認できたことです。生長した木々から森の回復がはじまったと感じました。もう一つは、全員が厳しい暑さの中での熱心に植樹している姿です。森の回復に挑む姿はとても美しく、また力強さを感じました。ツアーを通じ、一人ひとりの思いと行動が、未来の豊かな森につながるのだと新たに確信することができました。伊藤忠様のこの取組は、世界で最も保全すべきボルネオの森林回復活動をリードしています。これからもよろしくお願いいたします。

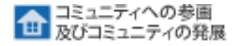
今回のツアーで出会ったボルネオの動物たち



豆知識4

これらの写真のキタバタンガン流域で見られたテングザルやスローロリスも、生息数の減少が著しいためにレッドリストに掲載されている絶滅危惧種です。そのため、野生下で見ることができるのは大変幸運なことです。

伊藤忠奨学金制度



次代を担う外国籍留学生への支援

伊藤忠商事は創業150周年という節目の年を迎えるにあたり、海外から日本の大学へ留学する学生が、留学にかかわる経済的負担を軽減されることで学業に専念し、将来日本と出身国の発展・関係強化に貢献することへの支援を目的として、「伊藤忠奨学金制度」を2009年に設立しました。

日本の大学で学んでいる海外からの留学生(大学3・4年生対象)20名～30名に対し、1名あたり年間150万円(1名に対し2年間援助／計300万円)の支援を行っています(毎年新規で20～30名追加)。

伊藤忠奨学金制度では、奨学生に対して経済的援助を行うのみならず、伊藤忠商事への理解を深めていただくために、伊藤忠が行っているボランティアを含めたCSR活動や、伊藤忠の事業内容・海外オペレーションに関する説明会などへも参加をしていただき、留学生との間の交流を積極的に行っています。

2010年度は5月末、東京都西多摩郡日の出町にて、伊藤忠奨学生と若手社員による里山保全ボランティアを実施しました。グループに分かれて竹切りを行い、切った竹を使った竹細工も体験しました。里山保全の重要性を認識すると同時に、奨学生と社員が交流を深める機会を持つことができました。

このような次代を担う留学生への支援活動を通じて、伊藤忠商事は留学生が大学卒業後、日本と各国の発展や関係強化に貢献することをサポートするとともに、真の「世界企業」として国際的な社会貢献を行っていきたいと考えています。



伊藤忠奨学生と伊藤忠グループ社員で記念撮影



皆で協力しての竹切り